

令和 2 年 7 月 6 日現在

機関番号：32665

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13374

研究課題名（和文）日本における1970年代の自主上映活動の研究

研究課題名（英文）Independent Film Screening in Japan in the 1970s

研究代表者

田中 晋平（Tanaka, Shimpei）

日本大学・芸術学部・研究員

研究者番号：90612870

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、1970年代に日本各地で展開された、非商業的な上映活動の実態を調査し、当時の観客の立場から形成された映画文化の歴史を明らかにしていった。研究成果として、関西における代表的な自主上映グループの活動に着目し、それらのローカルなコンテクストにおける活動の意義と歴史的背景について論考をまとめることができた。また、当該期の全国の上映グループが形成しはじめていた自主上映や自主配給のネットワークについて調査を進めながら、それらのグループに大きな影響を与えた、小川プロダクションの70年代における上映活動についての研究成果を公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで映画の観客や映画館などの受容空間の研究の蓄積が進められてきた動向のなかでも、注目されることのなかった領域である非商業的な映画の自主上映活動について、ローカルな映画文化として位置付け、歴史化するための作業を進め、学術論文や書籍を公表できた。「観たい映画を自分たちの手で上映する」ことを続けてきた自主上映の活動が、1970年代という、かつてのカウンターカルチャーの時代と消費社会化に向かう時代の過渡期に活性化した意義を検討できたことで、現在の映画上映環境へと至る歴史を捉えるための基礎的な視座が得られた。

研究成果の概要（英文）：In this study, the state of non-commercial film screening activities in Japan in the 1970s was investigated to understand the history of film culture as constructed from the perspective of contemporary audiences. The activities of representative independent screening groups in the Kansai region were examined, and conclusions were drawn regarding the significance and historical background of their activities in the local context. Further, in the context of independent screening and distribution networks that were formed by screening groups across the country at the time, the author's research findings regarding the 1970s screening activities of Ogawa Productions, which had a significant impact on these groups, were published in an academic journal.

研究分野：映像学

キーワード：自主上映 1970年代 ドキュメンタリー映画 実験映画 個人映画 自主映画 映画館

## 1. 研究開始当初の背景

近年、かつての映画館文化の研究やオーディエンス研究が増加し、従来の映画史研究の更新が行われているが、一般的な商業映画館とその観客をめぐる歴史研究の蓄積に比較して、非商業的な上映活動が担ってきた映画文化、具体的には、各地域で行われてきた自主上映活動についての調査がほとんど進められていない現状がある。

「自主上映」とは、広義には「観たい映画を自分たちの手で上映する」活動全般を指すものである。名画座でも観られなくなっていた古典的作品、日本に輸入されることのない海外の映画、あるいは政治・社会的なドキュメンタリーや実験映画・個人映画などは、主に自主上映活動を通して各地にもたらされた。それらの痕跡を示す上映グループの資料や証言を適切に保存しておかなければ、地域に息衝いてきた豊かな文化の記憶が消失する。

日本の自主上映の歴史に関する数少ない先行研究として、映画評論家の村山匡一郎は、戦前から認められる非商業的な上映活動を、(1)政治的な目的あるいは啓蒙的な目的で行われるもの、(2)映画ファン、シネフィルとして行われるものに大別している。(1)については、戦前のプロキノから戦後の独立プロと連繋した映画サークルの活動、また映画教育に関わる上映活動なども含まれる。歴史的には、(1)の映画運動の取り組みは、50年代中盤に停滞していき、以降(2)の映画ファンやシネフィルによる活動が増加したとされる。上記の区分に従った場合、既に研究の進捗が認められる戦後の映画サークルや60年代のシネクラブ的な上映活動の資料が一部まとめられているのと比較して、70年代に各地で行われていた自主上映活動の実態を調査した研究がほとんど存在していなかった。また、映画産業の衰退が著しく進んだ60-70年代に、自主上映をはじめていった個人やグループが、その後、各地でミニシアターなどの開設に至る経緯が認められることも、研究開始時点で念頭にあった。つまり70年代以降の非商業的な上映活動の歴史化を進めることは、自主上映が各地域に常設の映画館では観られない、多様な映画を提供した意義のみならず、現在のコミュニティシネマの活動などに至る、日本の映画上映の軌跡を検討する上で、不可欠な作業だと考えられた。その過程を明らかにする試みとして、まず70年代の自主上映の調査を進めることは、既にDVDやインターネット配信などの映像環境が整備されて久しい現在の映画文化を相対化させる視座をも提供してくれるだろうと想定できた。

## 2. 研究の目的

1970年代の日本では、映画産業の斜陽化が進み、従来の撮影所システムが解体に向かう一方で、自主映画の製作が活発化していた。さらにそのムーブメントとも一部連繋するかたちで、さまざまな自主上映のグループが各地域で活動を展開し、全国的なネットワークも形成して、作品の自主輸入や自主配給までを行なってきた歴史がある。本論の目的は、1970年代後半の非商業的な上映活動の詳細を確認することで、日本各地で自主上映が担ってきた文化的・歴史的役割を明らかにしていくことにあった。

## 3. 研究の方法

1970年代の自主上映グループが発行していた機関誌などの資料と当時の映画雑誌の記事や映画ファンが発行していたミニコミ、さらに『プレイガイドジャーナル』などの情報誌に掲載されていた「自主上映」欄を精査し、各地で生まれていた上映活動の実態を明らかにしていった。神戸映画資料館など、上記の多くを所蔵している複数のアーカイブ施設で、資料の参照を進めることができた。当該期に自主上映活動に携わってきた人物たちにも、インタビューを実施し、貴重な証言を得られた。また、1970年代以降の各地の自主上映にも多大な影響を及ぼしてきた、ドキュメンタリー映画製作集団である小川プロダクションの資料に関して、川崎市市民ミュージアムと共同研究を行い、詳細な調査を進めた。

## 4. 研究成果

### (1) 関西における自主上映の史的展開の調査

自主上映の調査を進め、その活動の動機や目的を考察していくなかで、首都圏と関西やその他の地域などの映画環境の差異を常に念頭におかねばならなかった。研究期間の前半では、1970年代の関西で行われていた自主上映を把握し、さらに代表的な上映グループの活動に注目して、地域的な特性、時代背景などをまとめる作業を進めていった。その成果にあたる学術論文として、「1970年代後半の関西における自主上映について」(『藝術』40号、大阪芸術大学、2017年)を発表した。大阪の「プラネット映画資料図書館」や京都の「シネマ・ダール」などの代表的なグループがどのような映画作品を上映しており、地域で活動を行ってきたかを概観していくことから、学生運動が退潮して消費社会化の進行が進む過渡期における、関西の自主上映文化の特質を確認することができた。なお、本論文はインターネット上でオープンアクセスとなっており、同研究分野の基礎的文献としても今後機能すると捉えている。

### (2) 映画常設館と自主上映の協働性についての調査

本研究の調査を進める過程で、重要な論点として現れたのが、地域の商業映画館と自

主上映グループとの関係であった。具体的な研究成果としては、70年代初頭に神戸・新開地の福原国際東映を会場にした「グループ無国籍」の上映活動に注目し、「グループ無国籍と1970年代の新開地」(板倉史明編『神戸と映画-映画館と観客の記憶-』、2019年、神戸新聞総合出版センター)として発表した。映画監督の大森一樹らも参加し、プログラム・ピクチャを中心に、オールナイト上映を続けたその映画ファンたちの活動は、新開地という衰退が進む映画街の状況に根ざしたものであったことを論じた。

### (3) 小川プロダクションの上映活動の調査

1960年代末に小川紳介を中心に結成され、三里塚や山形県の牧野などで映画を製作してきた小川プロダクションは、かつて政治・社会運動と結びついた上映活動を全国で展開してきた。1970年代中盤には、上映のスタイルを改め、各地の新たな上映グループと関係を構築していった経緯があり、本研究の調査対象となったグループにも大きな影響を与えてきた。同プロダクションに関連するノンフィルム資料については、川崎市市民ミュージアムと共同研究を実施するかたちで、調査を進めることができた。その成果の一部として、論文「小川プロダクション『どっこい!人間節 寿・自由労働者の街』の上映活動をめぐって」(『映像学』104号、日本映像学会発行、2020年予定)が学会誌に掲載される。同論文では、東京の山谷、大阪の釜ヶ崎と並ぶ日本三大寄せ場と呼ばれた横浜・寿町の記録映画である『どっこい!人間節』が、全国での上映を通じて、どのように不況下の寿町の窮状を伝えるメディアとしての役割を果たしたかを検討し、またドキュメンタリー映画としての本作の可能性にも議論を及ぼした。

### (4) インディペンデント映画と自主上映の関係の調査

1970年代は8mmや16mmフィルムで撮影された自主映画が活性化し、ぴあフィルムフェスティバルなどが開始された時代であり、映画を観てもらう空間を確保するため、作家たち自身も上映活動をおこなってきた。筆者は、2017年度よりシネアスト・オーガニゼーション大阪(CO2)主催の企画「JISYU 自主映画アーカイブ上映」に携わり、過去のインディペンデント映画の上映に加え、映像作家を招き、公開のトークの形式で、当時の映画製作の背景や上映活動について、インタビューを実施してきた。これまで万田邦敏、山川直人、手塚眞、植岡喜晴、高岡茂などの映画作家らにご協力をいただくことができた。上映会の報告は、CO2のホームページに掲載されている(<http://co2ex.org>)。

また筆者は、2018年度より大阪にある国立国際美術館客員研究員として、同館で主催する上映会「中之島映像劇場」のプログラミングを担当してきた。2018年11月には関西の実験映画・個人映画作家たちのグループで、京都・大阪・神戸の三都市で13年にわたって自主上映活動を続けたヴォワイアン・シネマテークの特集上映を企画した。そこでヴォワイアンメンバーの作品上映に加え、その自主上映活動に焦点を合わせたシンポジウムも開催し、当日の資料としてその全上映作品と上映空間のリストを配布することができた。

以上の研究成果から浮かび上がった今後も継続して取り組むべき課題として、1980年代以降の非商業上映の歴史を検討していく作業があげられる。まず、70年代の自主上映活動は、80年代以降にミニシアターなどを設立し、商業映画館に移行していく流れを形成していく(ユークロスペースや名古屋シネマテーク)。さらに美術館や図書館などを含む公共ホールにおける映画上映も増加し、フィルムの収集保存機能を備えた公共施設も全国に現れた。かつて自主上映が担ってきた、地域における映画の多様性を確保するという活動の意義は、80年代以降の映画状況の中で大きな変化を遂げたいことができ、昨年度までの研究を踏まえ、こうした現在に至る上映活動の流れが生まれる過程の詳細を明らかにしていきたいと考えている。今年度より科学研究費の助成による研究課題「日本における1980年代の非商業上映と文化政策の研究」(研究課題番号20K00259)を受け、その作業に着手している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 田中晋平	4. 巻 104
2. 論文標題 小川プロダクション『どっこい! 人間節 寿・自由労働者の街』の上映活動をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 映像学	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田中晋平	4. 巻 40
2. 論文標題 1970年代後半の関西における自主上映について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 藝術	6. 最初と最後の頁 87-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 田中晋平
2. 発表標題 1970年代前半の神戸における名画座と自主上映の関係：グループ無国籍の活動を中心に
3. 学会等名 日本映像学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中晋平
2. 発表標題 インタビュー調査による関西圏の自主上映についての研究
3. 学会等名 平成29年度日本大学研究員研究報告会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中晋平
2. 発表標題 小川プロダクション『どっこい! 人間節 寿・自由労働者の街』の上映運動について
3. 学会等名 日本映像学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 板倉史明、西村大志、上田学、本地陽彦、近藤和都、吉原大志、村上しほり、田中晋平、小山康之、石戸信也、森下明彦、田中真治	4. 発行年 2019年
2. 出版社 神戸新聞総合出版センター	5. 総ページ数 368
3. 書名 神戸と映画	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<ul style="list-style-type: none"> <li>・黄昏を暁と呼ぶるか 中之島映像劇場について <a href="http://www.nmao.go.jp/publish/pdf/news237.pdf">http://www.nmao.go.jp/publish/pdf/news237.pdf</a></li> <li>・閉鎖的映画－中之島映像劇場について － <a href="http://www.nmao.go.jp/publish/pdf/news236.pdf">http://www.nmao.go.jp/publish/pdf/news236.pdf</a></li> <li>・レビュー 『スクリーン・スタディーズ デジタル時代の映像/メディア経験』 <a href="https://www.jstage.jst.go.jp/article/eizogaku/103/0/103_010313/_pdf/char/ja">https://www.jstage.jst.go.jp/article/eizogaku/103/0/103_010313/_pdf/char/ja</a></li> <li>・異質な上映空間－中之島映像劇場について － <a href="http://www.nmao.go.jp/publish/pdf/news235.pdf">http://www.nmao.go.jp/publish/pdf/news235.pdf</a></li> <li>・KAVC CONVERSATION #03 これからの映画（館）を考える：神戸新聞地映画談義 <a href="https://www.kavc.or.jp/app/wp-content/uploads/2019/10/KAVC_VOICE_90_ok_for_web.pdf">https://www.kavc.or.jp/app/wp-content/uploads/2019/10/KAVC_VOICE_90_ok_for_web.pdf</a></li> <li>・JISYU vol.6 自主映画アーカイヴ上映 「越境する自主映画 - 高岡茂特集 - 」レポート <a href="http://co2ex.org/blog/10766/">http://co2ex.org/blog/10766/</a></li> <li>・第16回中之島映像劇場「関西の見者たち：ヴォワイアン・シネマテークの痕跡」シンポジウム「ヴォワイアンの上映活動」配布資料（於国立国際美術館）</li> <li>・『次世代映画ショーケース2019』パンフレット</li> <li>・第17回中之島映像劇場「回想の岩佐寿弥」配布資料</li> <li>・JISYU vol.5 自主映画アーカイヴ上映 ヴィジュアルリストの伝説 映像の魔術師・手塚真 <a href="http://co2ex.org/blog/10519/">http://co2ex.org/blog/10519/</a></li> <li>・JISYU vol.4 自主映画アーカイヴ上映 映画王と早大シネ研特集 <a href="http://co2ex.org/blog/10095/">http://co2ex.org/blog/10095/</a></li> <li>・JISYU vol.1 自主映画アーカイヴ上映 万田邦敏とパロディアス・ユニティ <a href="http://co2ex.org/blog/10069/">http://co2ex.org/blog/10069/</a></li> <li>・批評新聞『CALDRONS』第1号</li> </ul>
---

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考